

国語 第3学年 登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしようかいしょう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「三年とうげ（第3学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。これまでに読んだ物語と、「登場人物」「行動」「気持ち」「引用」をどこまで学習してきたか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、本をあまり読まない子、発言が偏る、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。学校図書館で民話の本をどれくらい用意できるか。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価基準の文末は変えない。

教科書の本文や台詞は引用しない。場面と登場人物の呼び方だけを使い、台詞や叙述を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしようかいしょう」教材名「三年とうげ（李錦玉）」

2 単元目標

引用の仕方や出典の示し方を知って使い、幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く（(2)イ・(3)オ）。登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、読んで分かったことから感想や考えをもつ（C(1)イ・オ）。民話のおもしろさを見つけて友達に紹介し、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価基準

〔知識・技能〕①引用の仕方や出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ）

〔知識・技能〕②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（(3)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、選んだ民話を紹介しようとしている。

4 指導上の考察

（１）単元について

本教材は、朝鮮半島に伝わる民話である。転ぶと三年しか生きられないという言い伝えのある峠で転んだおじいさんが、病気になって寝込み、トルトリの考えを聞いて元気を取り戻すまでが描かれている。おじいさんの行動や様子を表す言葉が、出来事のたびにはっきり変わるので、学習指導要領第3学年及び第4学年のC(1)イ「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」を、行動や様子の言葉から気持ちを考える形でそのまま働かせられる。言い伝えが歌の形でくり返されること、調子のよい言葉で出来事が語られること、困った言い伝えを使って困りごとを解決する展開など、民話らしいおもしろさがはっきりしているので、自分で選んだ民話のおもしろさを見つけて紹介する活動につなげやすい。子どもは第1学年及び第2学年で、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること（〔第1学年及び第2学年〕C(1)イ）を学んでいる。本単元では、行動だけでなく気持ちまで叙述を基に捉えることに進む。これは、第4学年までに学ぶ、気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて想像すること（C(1)エ）の土台になる。

（２）児童について（学級の実態を書く）

（３）指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、気持ちを考える前に、必ずおじいさんの行動や様子を表す言葉を見つけて線を引かせ、「どの言葉から」を添えて気持ちを言わせる。次に、おじいさんの気持ちを、転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後の三つの欄の表に書き、出来事と気持ちを結び付けて見られるようにする。そして、「三年とうげ」で見つけたおもしろさの観点（出来事、登場人物の行動や考え方、言葉の調子やくり返し）を、自分が選んだ民話を読む時の観点としてそのまま使わせる。紹介する文章では、本文の言葉をかぎ（「」）で引用し、書名と作者を書く決まりを守らせる。単元の始めから学校図書館の民話の本を教室に置き、並行読書を進める。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○これまでに読んだ民話や昔話を思い出し、おもしろかった所を伝え合う。○範読を聞いて初めの感想を書き、「えらんだ民話をしようかいしよう」という学習の見通しをもつ。○学校図書館で民話の本を探し、並行読書を始める。 評価：態①（行動観察・ノート）

第2次 第2時：○時・場所・登場人物・出来事を確かめ、物語を出来事の順に大きく分ける。○おじいさんが出来事ごとに何をしたかを、短い文で表にまとめる。 評価：思①（ノート）

第2次 第3時（本時）：○おじいさんの行動や様子を表す言葉に線を引き、転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後で、おじいさんの気持ちがどう変わったかを叙述を基に考える。 評価：思①（ノート・発言）《記録》

第2次 第4時：○「三年とうげ」のおもしろいところを、出来事、登場人物の行動や考え方、言葉の調子やくり返し、の三つの観点から見つけ、本文の言葉を引用してノートに書く。 評価：知①・思②（ノート）

第3次 第5時：○自分で選んだ民話を読み、登場人物の行動や気持ちと、おもしろいところを、引用しながら紹介カードに書く。書名と作者も書く。 評価：知①・思②（紹介カード）《記録》

第3次 第6時：○紹介カードを読み合い、感想を伝え合う。○学習を振り返り、民話を読んで知ったこと（その国や地域の暮らし・言葉など）を出し合う。 評価：知②（振り返り・読書の記録） 態①（振り返り・行動観察）《記録》

6 本時の指導（3／6）

（１）本時の目標

おじいさんの行動や様子を表す言葉を基に、転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後のおじいさんの気持ちを捉え、気持ちが変わったわけを説明できる。（C(1)イ）

（２）学習過程

【導入】

学習活動：1 前時にまとめた表で、物語の出来事の順を確かめる。

2 本時の問いをつかむ。

○「おじいさんの気持ちは、物語の中でずっと同じでしょうか」

【めあて】おじいさんの行動や様子を表す言葉から、おじいさんの気持ちの変わり方をとらえよう。

3 全文を音読する。

予想される児童の反応：・転んだ時は、こわかったと思う。

・最後は元気になったから、うれしい気持ちになった。

指導上の留意点：・前時の表を黒板に貼り、おじいさんの気持ちの欄は空けておく。

・音読の間、おじいさんがしたことが書いてある所に指を置いて読ませる。

【展開】

学習活動：4 一人で読み、おじいさんの行動や様子を表す言葉に線を引く。

○「おじいさんがしたことや、おじいさんの様子が分かる言葉はどれですか」

5 線を引いた言葉から、その時のおじいさんの気持ちを考え、表の三つの欄（転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後）に書く。

○「その言葉から、おじいさんのどんな気持ちが分かりますか」

6 ペアで、表に書いた気持ちと、その元になった言葉を伝え合う。

7 全体で話し合い、気持ちがいちばん変わったところと、そのわけを考える。

○「おじいさんの気持ちが大きく変わったのは、どこですか。どうして変わったのですか」

予想される児童の反応：・転ぶ前は、峠を歩いて家に帰るところだった。

・転んだ後は、とてもこわがった。家に帰ると、寝込んで病気になった。

・トルトリの話を聞いた後は、もう一度峠へ行き、自分から何度も転んだ。

・転ぶ前：早く家に帰りたい、いつもどおり。

・転んだ後：こわい、もうだめだ、悲しい。

・トルトリの話を聞いた後：安心した、うれしい、元気が出た。

・トルトリの話を聞いた所で、気持ちががらりと変わった。

・転べば転ぶほど長生きできると気付いたから。

・言い伝えは同じなのに、考え方を変えたら気持ちも変わった。

指導上の留意点：・気持ちを考える前に、必ず行動や様子を表す言葉を確認する順にする。

・線が引けない子には、先生が一か所だけ示し、その先は自分で引かせる。

・「こわい」「うれしい」など一語で終わる発言には「どの言葉から」と返し、本文の言葉を指させる。

・気持ちを表す言葉が思い浮かばない子には、気持ちを表す言葉の一覧（こわい・心配・がっかり・ほっとする・うれしいなど）を手元に置かせる。

・トルトリの話の所では、トルトリがどう考えたかを先に確かめ、それを聞いたおじいさんの行動に目を向けさせる。

・早く終わった子には「トルトリの話のどこを聞いて、おじいさんの気持ちが変わったか」を考えさせる。

・反応の欄の行動は要約で示している。線を引く叙述や台詞は、使う教科書から先生が書き入れる。

【まとめ】

学習活動：8 おじいさんの気持ちの変わり方を、ノートにまとめる。

（型）「おじいさんは、はじめ…という気持ちだった。転んだ後は、…という言葉から、…という気持ちだと分かる。トルトリの話を聞いた後は、…という言葉から、…という気持ちに変わった。わけは…」

9 二、三人が読み上げ、同じ所とちがう所を確認する。

10 振り返りを書く。

指導上の留意点：・振り返りは「言葉から分かったこと」と「友達の考えを聞いて、なるほど思ったこと」の二つで書かせる。

・次時は「三年とうげ」のおもしろいところを見つけることを伝え、本時の表をその手がかりにする。

評価：思① 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（ノート）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付・題名・めあて。その左に、前時の表（出来事の順に、転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後の三つの欄を右から左へ並べる）。中央に、三つの欄ごとに、上の段におじいさんの行動や様子を表す言葉

（叙述は先生が教科書から書き入れる）、下の段にその時の気持ちを書き、欄と欄の間を矢印でつなぐ。トルトリの話を聞いた所の矢印は太くして、気持ちが変わったわけを書き添える。その左に、子どもの考えのちがい（うれしい・ほっとした・元気が出た など）と、根拠の言葉。左端に、まとめの文の型と振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

